



神奈川県  
畜産技術センター

# 令和 7 年度業務年報

令和 8 年 7 月

## 目

|     |                                          |    |
|-----|------------------------------------------|----|
| I   | 概況                                       | 2  |
| 1   | 沿革                                       | 2  |
| 2   | 所在                                       | 2  |
| 3   | 土地及び建物                                   | 3  |
|     | (1) 土地                                   | 3  |
|     | (2) 建物                                   | 3  |
| 4   | 組織及び人員                                   | 3  |
| 5   | 令和7年度決算                                  | 3  |
| II  | 畜産情勢と試験研究・普及活動                           | 4  |
| 1   | 概要                                       | 4  |
| 2   | 乳用牛・肉用牛                                  | 5  |
| 3   | 飼料作物                                     | 5  |
| 4   | 養豚                                       | 6  |
| 5   | 養鶏                                       | 6  |
| 6   | 畜産環境                                     | 6  |
| 7   | 経営流通                                     | 6  |
| 8   | 衛生推進                                     | 7  |
| III | 試験研究                                     | 8  |
| 1   | 令和7年度試験研究体系                              | 8  |
| 2   | 令和6年度試験研究体系                              | 10 |
| 3   | 主要試験研究成果概要(令和7年度)                        | 12 |
|     | (1) 大家畜関係                                | 12 |
|     | (2) 飼料作物関係                               | 13 |
|     | (3) 養豚関係                                 | 13 |
|     | (4) 養鶏関係                                 | 14 |
|     | (5) 畜産環境関係                               | 15 |
| IV  | 普及指導                                     | 16 |
| 1   | 令和7年度普及指導計画                              | 16 |
| 2   | 令和7年度普及活動の概要                             | 17 |
|     | (1) 担い手の育成・確保に関する支援                      | 17 |
|     | (2) 県民ニーズに応じた安全・安心な農畜産物の生産・販売の取り組みに対する支援 | 17 |
|     | (3) スマート農業の取組に対する支援                      | 17 |
|     | (4) 気候変動への対応等環境対策や自然災害等への取り組みに対する支援      | 18 |
|     | (5) その他                                  | 18 |
| V   | 飼料検査・家畜改良等                               | 19 |
| 1   | 飼料検査業務                                   | 19 |

## 次

|     |                  |    |
|-----|------------------|----|
| (1) | 飼料検査指導事業         | 19 |
| (2) | 自給飼料対策事業         | 19 |
| 2   | 家畜育種改良関連業務       | 19 |
| (1) | 牛胚移植実績           | 19 |
| (2) | 優良系統豚利用推進事業      | 19 |
| (3) | かながわ酪農活性化対策事業    | 20 |
| (4) | 「かながわ鶏」の推進(ヒナ配付) | 20 |
| VI  | 研究発表・広報・技術指導     | 21 |
| 1   | 試験研究成果           | 21 |
| (1) | 刊行物              | 21 |
| (2) | 試験成績検討会議         | 21 |
| (3) | 試験研究成果検討部会       | 21 |
| (4) | 畜産技術検討会          | 22 |
| (5) | 農林水産技術会議         | 23 |
| (6) | 農林水産系研究機関研究成果発表会 | 23 |
| 2   | 学会・研究会等の発表       | 23 |
| 3   | 特許出願             | 24 |
| 4   | 雑誌等の発表           | 24 |
| 5   | 報道関係の取材・放送       | 25 |
| 6   | 技術相談、指導          | 25 |
| 7   | 畜産技術研修           | 25 |
| (1) | 研究人材活性化対策事業      | 25 |
| (2) | 地域畜産技術情報研究会      | 26 |
| (3) | その他の受講研修         | 26 |
| (4) | 受け入れ研修           | 26 |
| 8   | 施設見学・施設公開等       | 26 |
| (1) | 施設見学会来場者         | 26 |
| (2) | 科学技術週間           | 26 |
| (3) | 一日獣医師体験          | 27 |
| (4) | 施設公開             | 27 |
| 9   | 食育等に関する取り組み      | 27 |
| (1) | 出前事授業の実施状況       | 27 |
| 10  | 収集資料             | 28 |
| 11  | 表彰・受賞            | 28 |
| VII | 付 表              | 29 |
| 1   | 飼養家畜家禽頭羽数        | 29 |
| 2   | 令和7年度気象表         | 30 |
| 3   | 職員配置             | 31 |

# I 概 況

## 1 沿 革

|              |     |                                                                                                                                    |
|--------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 明治40年(1907年) | 4月  | 横浜市岡野町の農事試験場に畜産科（当初は養畜科、後に畜産部）が創設された。                                                                                              |
| 大正9年(1920年)  | 6月  | 道庁府県種畜場設置規定により、横浜市保土ヶ谷町に「神奈川県種畜場」を設置し、種畜、種きん、種卵の配布並びに畜産の奨励と技術指導を行う。                                                                |
| 大正10年(1921年) | 4月  | 農事試験場畜産部は種畜場の設置に伴い移管した。                                                                                                            |
| 昭和18年(1943年) | 3月  | 高座郡有馬村本郷（海老名市本郷）の現在地に移転した。                                                                                                         |
| 昭和21年(1946年) | 4月  | 高座郡相模原町田名及び足柄下郡橋町小舟に分場を設置し、種雄牛を配置し牛の人工授精業務を始めた。                                                                                    |
| 昭和24年(1949年) | 8月  | 藤沢市石名坂及び中郡土沢村上吉沢に分場を設置した。                                                                                                          |
| 昭和26年(1951年) | 4月  | 分場は家畜保健衛生所の設置に伴い、独立した家畜人工授精所として併置された。                                                                                              |
| 昭和34年(1959年) | 7月  | 機構改革により、庶務課ほか4科（養牛科、養豚科、養鶏科、飼料作物科）が設置された。                                                                                          |
| 昭和36年(1961年) | 12月 | 神奈川県行政組織規則の一部改正により、「神奈川県畜産試験場」と称し、庶務課、養牛科、養豚科、養鶏科、飼料作物科が設置された。                                                                     |
| 昭和38年(1963年) | 6月  | 機構改革により、庶務課ほか6科（種畜科、酪農科、養豚科、養鶏科、生理衛生科、飼料科）に改められた。                                                                                  |
| 昭和40年(1965年) | 4月  | 神奈川県行政組織規則の一部改正により、庶務部（1課）と技術研究部（6科）となり、さらに、同年7月1日をもって技術研究部の組織が調査資料科ほか5科（調査資料科、酪農科、養豚科、養鶏科、生理繁殖科、飼料科）に改められた。                       |
| 昭和44年(1969年) | 7月  | 神奈川県行政組織規則の一部改正により、庶務部庶務課が管理部管理課に、調査資料科が畜産公害科に改められた。                                                                               |
| 昭和55年(1980年) | 8月  | 神奈川県行政組織規則の一部改正により、技術研究部を2部制とし、管理部1課（管理課）、飼料環境部2科（畜産環境科、飼料科）、飼養改良部4科（改良増殖科、酪農科、養豚科、養鶏科）に改められた。                                     |
| 平成7年(1995年)  | 4月  | 試験研究機関の再編整備に伴い、神奈川県行政組織規則の一部改正を行い「神奈川県畜産研究所」と改称し、科制及び管理部を廃止し、2部1課（管理課）、企画経営部3グループ（経営流通、企画調整、畜産環境）、畜産工学部3グループ（繁殖工学、大家畜、中小家畜）に改められた。 |
| 平成17年(2005年) | 4月  | 神奈川県行政組織規則の一部改正により、「神奈川県畜産技術センター」と改称し、2部1課に加え、普及指導部（3グループ：経営環境、酪農肉牛、養豚養鶏）が設置された。                                                   |
| 平成22年(2010年) | 4月  | 試験研究機関の再編整備に伴い、神奈川県行政組織規則の一部改正を行い「神奈川県農業技術センター畜産技術所」に改称し、部を廃止し、3担当1課（企画経営担当、畜産工学担当、普及指導担当、管理課）に改められた。                              |
| 平成23年(2011年) | 6月  | 神奈川県行政組織規則の一部改正により、3課（管理課、企画研究課、普及指導課）に改められた。                                                                                      |
| 平成26年(2014年) | 4月  | 神奈川県行政組織規則の一部改正により、「神奈川県畜産技術センター」と改称し、企画指導部（企画研究課、普及指導課）と管理課の1部1課に改められた。                                                           |

## 2 所 在

神奈川県海老名市本郷3750

3 土地及び建物

(1) 土地 ( R8. 3. 31 現在)

| 地 目 | 建物の敷地面積               | 圃場面積                  | 放牧地その他                | 計                      |
|-----|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|
| 面 積 | 12,483 m <sup>2</sup> | 89,829 m <sup>2</sup> | 73,453 m <sup>2</sup> | 175,765 m <sup>2</sup> |

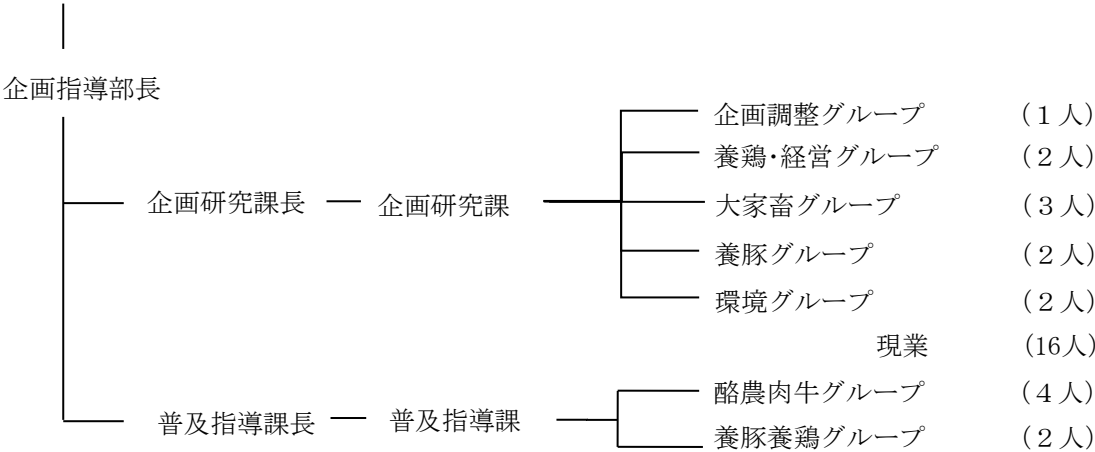
(2) 建物 ( R8. 3. 31 現在)

| 名称 | 本館                 | 牛施設                  | 豚施設                  | 鶏施設                  | その他                  | 計                     |
|----|--------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|
| 棟数 | 1棟                 | 11 棟                 | 21棟                  | 4棟                   | 39 棟                 | 76棟                   |
| 面積 | 429 m <sup>2</sup> | 2,639 m <sup>2</sup> | 4,691 m <sup>2</sup> | 1,255 m <sup>2</sup> | 3,467 m <sup>2</sup> | 12,481 m <sup>2</sup> |

4 組織及び人員 (常勤職員) ( R7. 4. 1 現在)

畜産技術センター (40名)

所長 — 副所長兼  
管理課長 ————— 管理課 (3人)



5 令和7年度決算

| 科目       | 財源構成        | 科目      | 支出額         |
|----------|-------------|---------|-------------|
|          | 円           |         | 円           |
| 使用料及び手数料 | 3,149,856   | 総務費     | 129,146,873 |
| 財産収入     | 64,987,017  | 総務管理費   | 128,159,973 |
| 諸収入      | 3,511,186   | 政策費     | 986,900     |
| 一般財源ほか   | 224,680,625 | 農林水産業費  | 167,156,811 |
|          |             | 農業費     | 1,625,506   |
|          |             | 畜産業費    | 165,531,305 |
|          |             | 環境費     | 25,000      |
|          |             | 環境保全対策費 | 25,000      |
| 計        | 296,328,684 | 計       | 296,328,684 |

## Ⅱ 畜産情勢と試験研究・普及活動

### 1 概 要

わが国の畜産経営は、国内景気の不透明感や畜産物の消費低迷に加えて、飼料価格の高止まりなどの厳しい状況にある。また、経済連携の進展など国際状況の変化も予断を許さず、枝肉の高相場に支えられ、経営状況が良い養豚も含め、今後、厳しい国際競争にさらされる状況にある。

近年では、家畜防疫に関する課題も格段に増えている。平成16年に国内で初発生した鳥インフルエンザに始まり、平成22年に猛威を振るった口蹄疫、平成25年から毎年発生している豚流行性下痢(PED)等に加え、平成30年9月に国内で26年ぶりに豚熱(CSF)が発生し、本県においても令和3年7月に相模原市の養豚場1戸でCSFが発生した。令和7年5月30日現在、CSFの飼養豚での発生は22都県、野生イノシシでの陽性発生は全国に広がり、ワクチン接種が実施されている。さらには、国内での発生はまだないもののアフリカ豚熱(ASF)の脅威も年々高まっている。今後も家畜防疫に関する意識向上・施設改善等による防疫の強化等が求められている。

る。

本県の畜産は、都市化の進展や経営者の高齢化・後継者不足などにより飼養農家戸数・飼養頭羽数が減少傾向にあり、規模拡大も難しい経営環境にある。令和7年2月1日現在の主要家畜の統計数値は表のとおりで、飼養戸数・頭羽数はほぼ横ばいから微減で推移している。

本県は大消費地に近い経営環境であることから、消費者に密着した直販経営や加工販売による高付加価値化など、都市近郊の有利性を生かした経営が行われている。本県農業の中で畜産は野菜や果実等と並び重要な地位を占めており、令和5年の本県農業産出額における畜産の割合は約25%となっている。

令和6年の県内消費量に対する県内生産量は、飲用牛乳61万人分、鶏卵95万人分、豚肉47万人分、牛肉15万人分となっている。また、本県の畜産は、県民に新鮮な畜産物を安定的に供給するだけでなく、昨今の食の安全に対する県民の関心に応えるべく安全で安心な畜産物の提供が求められている。さらに、食品残さなど未利用

神奈川県の家畜飼養戸数・頭羽数

(単位：戸・頭・千羽)

| 年月日   | 乳用牛    |        |         | 肉用牛    |         |         | 豚       |         |         | 採卵鶏     |         |         |
|-------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|       | 戸数     | 頭数     | 1戸当     | 戸数     | 頭数      | 1戸当     | 戸数      | 頭数      | 1戸当     | 戸数      | 羽数      | 1戸当     |
| 7.2.1 | 106    | 3,790  | 35.8    | 46     | 4,710   | 102.4   | -       | -       | -       | -       | -       | -       |
|       | (90.6) | (94.3) | (104.1) | (90.2) | (91.8)  | (101.8) | (-)     | (-)     | (1)     | (-)     | (-)     | (-)     |
| 6.2.1 | 117    | 4,020  | 34.4    | 51     | 5,130   | 100.6   | 41      | 67,200  | 1,639   | 38      | 1,041   | 27.0    |
|       | (89.3) | (90.7) | (101.8) | (92.7) | (103.0) | (112.3) | (102.5) | (104.0) | (101.5) | (92.8)  | (100.4) | (110.7) |
| 5.2.1 | 131    | 4,430  | 33.8    | 55     | 4,980   | 90.5    | 40      | 64,600  | 1,615   | 41      | 1,037   | 24.4    |
|       | (92.3) | (91.3) | (98.8)  | (94.8) | (100.2) | (105.6) | (97.6)  | (106.3) | (108.9) | (100.0) | (88.4)  | (85.3)  |

( )：対前年比、農林水産省統計情報から(7年はセンサス年のため豚、鶏は未実施)

資源の飼料利用や家畜ふん堆肥の供給など、資源循環の一端を担っている。近年では、消費者との交流や家畜とのふれあいを通じた食育などの多面的役割も担っている。

一方、本県は、県土が狭小にもかかわらず全国2番目の人口を抱える都市環境にあることから、畜産経営の持続的発展を図るためには、臭気問題の解決など、都市環境との調和が重要な

課題となっている。また、畜産の厳しい労働環境や他産業への労働力の流出などによる後継者不足と経営者の高齢化に伴う経営体数の減少も大きな課題となっている。輸入畜産物の台頭や国内の産地間競争の激化等に対し、生産性や品質の向上に加え、県産畜産物のブランド力の向上による経営体質の強化が求められている。

県では、県政運営の総合的・基本的指針とし

て「新かながわグランドデザイン基本構想」および「実施計画」を令和6年3月に策定した。この実施計画は、令和6～9年度の4年間に取組む施策を示しており、13のプロジェクトが位置づけられている。そのうち、プロジェクト「テーマⅡ 持続的に発展する神奈川」の柱の一つとして、地産地消の推進による持続可能な農林水産業の実現を目的として、安定した食料等の生産基盤の構築、安全・安心な魅力ある県産農林水産物の利用拡大に取り組むこととしている。畜産の主な取組内容としては、県産畜産物の知名度向上や、国際情勢の変化に左右されない飼料生産基盤の強化、畜産農場における飼養衛生管理向上の取り組みを推進することとしている。

こうした中、当所では「神奈川県都市農業推進条例」の理念と「かながわ農業活性化指針」の目標の実現に向けて、克服すべき技術的課題の解決や本県の有利性をのばす研究開発を行っている。また、開発された技術の普及と併せて直接生産現場と接する活動を通して畜産経営全体の向上と畜産振興のための普及活動を行っている。

具体的に研究面では、令和5年3月に策定された、神奈川県農林水産関係試験研究推進構想（畜産の部）において、①データ駆動型畜産の実践による生産性の高い畜産経営の実現、②県民ニーズに応える魅力ある畜産物の提供、③環境と調和した畜産経営の実現と脱炭素社会への貢献の3つの方向を掲げ、研究開発を行っている。

また、普及面では、令和4年3月に改訂された神奈川県協同農業普及事業の実施に関する方針に基づき、①担い手の育成・確保に関する支援、②県民ニーズに応じた安全・安心な農畜産物の生産・販売の取組に対する支援、③スマート農業の取組に対する支援、④気候変動への対応等環境対策や自然災害等への取組に対する支援、⑤地域農業の振興を図るための取組に対する支援の5つの方向を掲げ、普及指導活動を行っている。

当所の組織体制については、農業・畜産を巡る環境変化や平成22年3月の機関評価の提言を踏まえて、効果的・効率的に持続可能で活力ある都市農業の推進と担い手育成を図るため、平成26年4月に「神奈川県農業技術センター畜産技術所」から「神奈川県畜産技術センター」と改称し、企画指導部（企画研究課、普及指導課）と管理課の1部1課に改められた。

## 2 乳用牛・肉用牛

本県の酪農経営は、都市化の制約を受けながらも、優良牛の安定確保と効率的飼料給与による生産性の高い経営を目指している。しかし、飼料などの生産資材価格が高止まりする中で、良質生乳生産と生産コストの低減に向けた一層の努力が求められている。また、後継牛生産と収入確保のための肉用子牛の生産を両立するために計画的な交配が求められている。このような中で、乳用牛は全県的に飼養されているが、比較的湘南地域に集中し、特に生産性の高い経営が展開されており、自給飼料生産も積極的に行われている。

乳用牛飼養戸数は減少傾向にあるが、令和6年度牛群検定成績は平均で305日乳量9,376kgであり、都道府県の9,721kgには及ばないが、ゲノミック評価を活用した牛群の改良やスマート技術を活用した効率的な飼養管理に努めている。

本県の肉用牛経営は、大消費地という立地条件を生かし、食品製造副産物等を利用した特色ある肥育技術やブランド化により、県民に高品質で安全な牛肉を提供している。肉用牛は、横浜、三浦半島、湘南地域を中心に黒毛和種、交雑種が飼養され、横濱ビーフ、葉山牛、足柄牛などのブランド牛肉の生産が行われている。飼養頭数は、肉専用種が大半を占めており、その大部分は黒毛和種及び黒毛和種とホルスタイン種の交雑種である。ここ数年飼養戸数は微減しているが、一部の大規模農場の影響により、県全体の頭数は微増しており、効率的な飼養技術の確立を図る努力が続けられている。

試験課題として、乳用牛では後継牛確保対策を目的とした経腔採卵(OPU)の現地実証、未經産牛におけるOPU実施方法、高品質胚生産に向けた体外受精技術の開発のほか、生体センサを用いた分娩予測の検討等の研究に取り組んでいる。肉用牛では、肥育牛からの温室効果ガスの削減に関する試験を実施している。

普及活動としては、計画的な乳用後継牛の確保を目的とした経営毎の交配プラン作成支援や、飼養環境改善技術の普及に取り組んでいる。また、肉用牛の肥育素牛の損耗防止や枝肉品質の改善、和牛生産基盤の拡充のための支援を行っている。

## 3 飼料作物

県における令和6年の自給飼料栽培総面積は316haであり、1戸当たり270.1aとなっている。県内の飼料自給率はTDN栄養水準で15.5%であり平成3年をピークに減少してきたが、近年はほぼ横ばい傾向にある。

作付けの構成はトウモロコシ56.3%、牧草

33.2%を中心に栽培され、主にサイレージによる貯蔵給与が行われている。このような状況の中で、炭素や堆肥を貯留した農地での飼料作物栽培体系の確立、子実用トウモロコシ安定多収生産技術の開発、イタリアンライグラス系統適応性検定試験を実施している。

普及活動としては、飼料自給率の向上に向けて従来の飼料作物生産に加え、WCS用稲の栽培支援を行っている。また、近年被害が確認されているツマジロクサヨトウの防除についても支援を行っている。

#### 4 養豚

本県の養豚経営は920万県民の大消費地を背景に、銘柄豚肉生産の取組など特徴ある経営を展開している。都市化の進展に伴う環境対策や後継者不足などの課題があり、飼養戸数は減少傾向だが、飼養頭数は横ばいである。

豚は、横浜、湘南、県央地域に多く飼養され、一貫生産経営が主体で、従業員を雇用した大規模経営もあり、やまゆりポーク、かながわ夢ポーク、はまポークなどのブランド豚肉が生産されている。また、食品残さを有効利用したエコフィードの利用も進んでいる。今後は、環境対策に配慮した経営や消費者ニーズの多様化に伴う豚肉の高品質化、安全性志向への対応など、周辺環境に適した飼養規模でのより一層の生産性向上や、ブランド力のある銘柄豚肉生産が経営展開の鍵となっている。

一方、46年ぶりとなる県内での豚熱発生を受けて、農場の衛生対策の一層の強化に向けた取り組みが行われている。

当所では、平成15年度に繁殖性や強健性に優れたランドレース種の系統豚「ユメカナエル」を造成した。系統の持つ高い能力や遺伝的特性を変化させることなく、生産者に安定的に供給できるよう系統豚の維持と繁殖を行っており、交雑種雌豚生産の基礎豚として県内養豚農家に供給している。

試験課題としては、系統豚を利用した高品質豚肉生産技術に関する研究、暑熱環境に対応した飼養管理技術に関する研究、機能性素材を利用した離乳期子豚の発育改善に関する研究に取り組んでいる。

普及活動としては、飼料や飼養管理技術の改善の支援、肉質分析による良質豚肉の安定生産に向けた支援を行っている。

#### 5 養鶏

本県の養鶏経営は、県央地域を中心に飼養さ

れ、大規模経営と直売が主体の小規模経営に分かれている。都市化に伴う経営環境の悪化と鶏卵消費の頭打ち等、厳しい生産環境の中で営まれているが、大消費地を背景に、鶏卵直売所からプリン、シュークリーム等の洋菓子、たまご焼きなど加工品の販売や卵を食材としたカフェを併設する等の集客を図り、鶏卵の付加価値を高める経営に取り組んでいる。最近では、新規参入者による小規模養鶏経営も増加している。

試験課題としては、アニマルウェルフェアに即した飼養管理による採卵鶏の生産性向上に関する研究や鶏舎での暑熱対策技術の開発に取り組んでいる。

一方、県産肉用鶏「かながわ鶏」については、お茶の加工残さを給与し、抗酸化作用による鶏肉の鮮度維持効果の検討や、海苔加工残さを給与し、鶏肉の保水性向上等の検討に取り組んでいる。

普及活動としては、小規模養鶏経営に対する技術支援、「かながわ鶏」に対する飼養管理、生産流通体制構築に向けた支援を行っている。

#### 6 畜産環境

都市近郊の本県の畜産経営は、住宅等との混住化が進んでいることから、畜産環境対策が課題となっており、特に臭気対策が喫緊の課題である。また、家畜排せつ物については、ふんの堆肥化処理は、家畜排せつ物法の施行にあわせて処理施設が整備され、尿は浄化槽での処理が主体であるが、公共下水道も利用されている。

試験課題としては、開放型畜舎での臭気抑制技術の開発として、環境調査および換気方法の検討、家畜用浄化槽の曝気量制御による低コスト運転技術の実証試験に取り組んでいる。

普及活動としては、畜舎環境巡回等の機会を利用して、家畜排せつ物処理施設の適正な維持管理について、関係機関と連携して支援を行っている。

#### 7 経営流通

普及活動としては、新規就農者や認定農業者などの経営発展を目指す生産者に対しての支援や、生産者グループによる販売促進活動等の取り組みに対する支援を行っている。

#### 8 衛生推進

県及び国は畜産物の安全性を生産段階において確保するための手法として、農場HACCPやJGAPの生産現場への導入を推奨している。

普及活動としては、農場HACCPやJGAPの導入を

目指す生産者の支援や、既に農場HACCP認証を取得している生産者のシステム継続等の取り組みに対する支援を行っている。

### Ⅲ 試験研究

#### 1 令和7年度試験研究体系

##### ■データ駆動型畜産の実践による生産性の高い畜産経営の実現

###### データを活用して生産性向上を図るための技術開発

###### スマート畜産を推進するための技術開発

- 1 スマート畜産の導入指標の検証
- 2 家畜管理を効率化するための技術開発
- 重 (1) 生体センサを用いた繁殖管理に関する研究 (R4～R7) ★○⊕
- 3 家畜ふん尿処理を省力化するための技術開発
- (1) 家畜用浄化槽の低コスト改修技術の検討【後掲】

###### 収益性の向上を支援するための技術開発

- 1 経営戦略を支援するための技術開発
- (1) ベンチマークによる畜産経営改善システムの確立 (R6～R7) ☆○
- 2 生産性向上のための飼養管理技術の開発
- (2) 未經産牛におけるOPUを用いた後継牛確保対策 (R2～R7) ★㊦

###### 技術シーズを創出するための調査研究

- 1 技術シーズを創出するための調査研究
- 新 (5) 「足柄茶」の加工残さ給与による「かながわ鶏」の鮮度維持効果及び肉質への影響 (R7) ㊦

##### ■県民ニーズに応える魅力ある畜産物の提供

###### 県産ブランド畜産物の生産を推進するための技術開発

###### 県産ブランド畜産物の生産を推進するための技術開発

- 1 畜産物に対する新たな県民ニーズの調査
- 2 高品質な県産畜産物を安定生産するための技術開発
- 重 (1) 系統豚を利用した高品質豚肉生産技術の確立 (H15～R9) ㊦
- 重 (3) かながわ鶏の高付加価値化のための飼養管理技術の開発 (R5～R9) ☆㊦⊕
- (5) 「足柄茶」の加工残さ給与による「かながわ鶏」の鮮度維持効果及び肉質への影響【前掲】

###### 安全・安心な畜産物を提供するための技術開発

###### 安全・安心な畜産物の生産技術の開発

- 1 安全・安心な畜産物の生産技術の開発
- 新 (1) アニマルウェルフェアに対応した飼養管理による採卵鶏の生産性向上に関する研究 (R7～R9) ☆○
- 新 (2) 機能性素材を利用した離乳期子豚の発育改善効果の検証 (R7) ○㊦

## ■環境と調和した畜産経営の実現と脱炭素社会への貢献

### 環境と調和した畜産経営のための技術開発

#### 畜産経営から発生する臭気抑制技術の開発

##### 1 畜産経営から発生する臭気抑制技術の開発

- 重 (3) 開放畜舎での臭気抑制技術の開発 (R6～R8) ㊦

#### 家畜排せつ物処理における環境負荷低減技術の開発

##### 1 効率的な家畜ふん尿処理技術の開発

- (1) 家畜用浄化槽の低コスト改修技術の検討 (R1～R8) ㊥㊦㊧㊨

### 脱炭素社会に貢献するための技術開発

#### 畜産生産における脱炭素化技術の開発

##### 1 温室効果ガスの発生を削減するための技術開発

- 重 (1) 肥育牛からの温室効果ガスの発生を低減する飼養管理技術の開発 (R5～R8) ★☆㊦㊧㊨

- 重 (2) 炭素や堆肥を貯留した農地での飼料作物栽培体系の確立 (R5～R7) ㊥

- 重 (3) 子実用トウモロコシの安定多収生産技術の開発 (R4～R7) ㊥

##### 2 地域資源を有効活用するための技術開発

- (2) 肥育牛からの温室効果ガスの発生を低減する飼養管理技術の開発【前掲】

#### 気候変動に適応するための技術開発

##### 1 暑熱環境に対応した飼養管理技術の開発

- (5) イタリアンライグラス系統適応性検定試験 (R5～R7) ㊥㊦㊧㊨

- (6) 環境要因が種雄豚精液性状に与える影響 (R6～R7) ㊥

- 新 (7) 繁殖母豚の暑熱対策技術の開発 (R7) ㊥

- 新 (8) 鶏舎での暑熱対策技術の開発 (R7～R8) ㊥

### 研究目標

#### 試験研究課題（大課題）

##### 1 試験研究課題（中課題）

##### (1) 試験研究課題（小課題）

新：新規研究課題 5 課題、重：重点研究課題 7 課題

★：令和 7 年度に要試験研究問題として提案されたものを実施中であるもの 3 課題

☆：令和 6 年度要試験研究問題として提案されたものを実施又は実施中であるもの 4 課題

#### 17 課題

財源：㊥：一般試験 9、㊦：県単事業（一般試験除く） 6、㊧：受託試験 2

外部連携：㊥：農研機構 3、㊦：独法 1、㊧：公設試 2、㊨：大学 3、㊩：民間 2

## 2 令和6年度試験研究体系

### ■データ駆動型畜産の実践による生産性の高い畜産経営の実現

#### データを活用して生産性向上を図るための技術開発

##### スマート畜産を推進するための技術開発

- 1 スマート畜産の導入指標の検証
- 2 家畜管理を効率化するための技術開発

- 重** (1) 生体センサを用いた繁殖管理に関する研究 (R4～R6) ㊦㊧
- 3 家畜ふん尿処理を省力化するための技術開発
  - (1) 家畜用浄化槽の低コスト改修技術の検討【後掲】

##### 収益性の向上を支援するための技術開発

- 1 経営戦略を支援するための技術開発

- 新** (1) ベンチマークによる畜産経営改善システムの確立 (R6～R7) ★㊦
- 2 生産性向上のための飼養管理技術の開発
  - (1) 新技術(OPU)を用いた効率的な後継牛確保対策 (H27～R6) ㊦㊧
  - (2) 未經産牛におけるOPUを用いた後継牛確保対策 (R2～R6) ㊦

##### 技術シーズを創出するための調査研究

- 1 技術シーズを創出するための調査研究
- (2) 受胎率の高い胚を生産するための体外胚生産方法の確立 (R5～R6) ㊦㊧

- 新** (4) 地下水を利用した冷却パネルによる暑熱対策が授乳期母豚の飼養環境 (R6) ㊦㊧  
および生産性に及ぼす影響

### ■県民ニーズに応える魅力ある畜産物の提供

#### 県産ブランド畜産物の生産を推進するための技術開発

##### 県産ブランド畜産物の生産を推進するための技術開発

- 1 畜産物に対する新たな県民ニーズの調査
- 2 高品質な県産畜産物を安定生産するための技術開発

- 重** (1) 系統豚を利用した高品質豚肉生産技術の確立 (H15～R9) ㊦
- 重** (3) かながわ鶏の高付加価値化のための飼養管理技術の開発 (R5～R9) ☆㊦㊧

#### 安全・安心な畜産物を提供するための技術開発

##### 安全・安心な畜産物の生産技術の開発

- 1 安全・安心な畜産物の生産技術の開発

## ■環境と調和した畜産経営の実現と脱炭素社会への貢献

### 環境と調和した畜産経営のための技術開発

#### 畜産経営から発生する臭気抑制技術の開発

- 1 畜産経営から発生する臭気抑制技術の開発
- (2) 開放畜舎での臭気抑制技術の開発 (R6～R8) ㊦㊧

#### 家畜排せつ物処理における環境負荷低減技術の開発

- 1 効率的な家畜ふん尿処理技術の開発
- (1) 家畜用浄化槽の低コスト改修技術の検討 (R1～R8) ☆㊡㊢㊣㊤

### 脱炭素社会に貢献するための技術開発

#### 畜産生産における脱炭素化技術の開発

- 1 温室効果ガスの発生を削減するための技術開発
- 重 (1) 肥育牛からの温室効果ガスの発生を低減する飼養管理技術の開発 (R5～R8) ☆㊦
- 重 (2) 炭素や堆肥を貯留した農地での飼料作物栽培体系の確立 (R5～R7) ㊠
- 重 (3) 子実用トウモロコシの安定多収生産技術の開発 (R4～R7) ☆㊡㊢㊣㊤
- 2 地域資源を有効活用するための技術開発
- 重 (1) 新規未利用資源を活用した採卵鶏の飼料給与方法の確立 (R5～R6) ☆㊠
- (2) 肥育牛からの温室効果ガスの発生を低減する飼養管理技術の開発【前掲】

#### 気候変動に適応するための技術開発

- 1 暑熱環境に対応した飼養管理技術の開発
- (1) 飼料作物奨励品種選定試験 (R5～R9) ㊠
- (2) 神奈川県における寒地型イネ科牧草の適応性の検証 (R3～R9) ★☆㊠
- (5) イタリアンライグラス系統適応性検定試験 (R5～R7) ㊡㊢㊣㊤
- 新 (6) 環境要因が種雄豚精液性状に与える影響 (R6～R7) ㊡㊢㊣㊤
- (7) 地下水を利用した冷却パネルによる暑熱対策が授乳期母豚の飼養環境および生産性に及ぼす影響【前掲】

### 研究目標

#### 試験研究課題（大課題）

- 1 試験研究課題（中課題）
- (1) 試験研究課題（小課題）

新：新規研究課題 4 課題、重：重点研究課題 7 課題

★：令和 6 年度に要試験研究問題として提案されたものを実施中であるもの 8 課題

☆：令和 5 年度要試験研究問題として提案されたものを実施又は実施中であるもの 5 課題

#### 2.4 課題

財源：㊠：一般試験 8、㊦：県単事業 10、㊡：受託試験 3

外部連携：㊢：農研機構 3、㊣：独法 1、㊤：公設試 2、㊦：大学 6、㊧：民間 2

### 3 主要試験研究成果概要（令和7年度）

#### （1）大家畜関係

##### ○生体センサを用いた繁殖管理に関する研究

（生体センサを用いた妊娠末期の分娩予測の検討）

温度センサと3次元加速度センサを内蔵した多機能尾部センサを分娩予定10日前のホルスタイン種雌牛の尾根部腹側に装着して体表温度と尾部加速度を測定し、放し飼いモデル及びつなぎ飼いモデルのアルゴリズムの機械学習により、24時間以内及び6時間以内の分娩予測を検知した。放し飼いモデル及びつなぎ飼いモデルで24時間以内分娩予測の検知率は82.5%及び87.5%、時間内率は69.7%及び57.1%であり有意差は認められなかった。6時間以内分娩予測の検知率は67.5%及び77.5%、時間内率は74.1%及び74.2%であり有意差は認められなかった。24時間以内と6時間以内を組み合わせた分娩予測の検知率は87.5%及び87.5%、時間内率は77.1%及び82.9%であり有意差は認められなかった。

##### ○未経産牛におけるOPUを用いた後継牛確保対策

（未経産牛におけるOPUを利用した効率的な胚生産方法の検討）

未経産牛に適したOPUの実施方法と実施後の繁殖成績への影響を検討するため、12ヶ月齢以降のホルスタイン種未経産牛に卵胞発育処理を行い、OPUによる胚生産成績と繁殖成績を調査した。OPU時の卵胞数は10AU区では小卵胞、20AU区では中卵胞が最も多かったが、採取卵子数は10.5個及び9.8個、培養可能卵子率は85.6%及び90.4%であり、試験区間に有意差は認められなかった。胚盤胞率は30.0%及び36.9%、胚盤胞数は2.8個及び3.3個であり、試験区間に有意差は認められなかった。供試牛はOPU後8.3日で発情を確認し、初回授精受胎率は50.0%であった。

##### ○受胎率の高い胚を生産するための体外胚生産方法の確立

（マイクロ流体デバイスで生産された体外胚の受胎性評価）

マイクロ流体デバイスで生産された体外胚の受胎性を評価した。マイクロ流体デバイスで選別捕集した精子を用いた体外受精後の胚盤胞発生率、A+A'胚率は、36.4%、70.8%であった。また、生産された体外胚を9頭に移植したところ、3頭が受胎し、受胎率は33.3%であった。以上の結果から、マイクロ流体デバイスで選別捕集した精子の体外受精で生産した移植可能胚の受胎が確認された。

##### ○肥育牛からの温室効果ガスの発生を低減する飼養管理技術の開発

（エコフィードを活用した肥育牛から発生する温室効果ガス抑制方法の検討（中間成績））

ライフサイクルアセスメント（LCA）を用いて、トウフ粕を主原料とした発酵飼料（トウフ粕発酵飼料）をエコフィードとして活用した肥育牛の飼養管理技術について検討した。肥育中期における飼料、消化管内発酵、排泄物管理由来の合計GHG排出量は、試験区は対照区より13.0%少なかった。また、体重、体高、日増体量、飼料要求率は、処理区間に有意差は認められなかった。以上より、肥育中期においてトウフ粕発酵飼料を給与することで生産性に影響を及ぼすことなく市販配合飼料に比べてGHGの排出を低減できることが示唆された。

（エコフィードを活用した肥育牛から発生する温室効果ガス抑制方法の検討）

ライフサイクルアセスメント（LCA）を用いて、肥育牛へのトウフ粕の給与による温室効果ガス抑制方法について検討した。肥育前期における飼料、消化管内発酵、排泄物管理由来の合計GHG排出量は、対照区では1,236.8kgCO<sub>2</sub>eq、試験区では1,053.3kgCO<sub>2</sub>eqであり、試験区は対照区より14.8%少なかった。また、体重、体高、日増体量、飼料要求率は、処理区間に有意差は認められなかった。以上より、肥育前期においてトウフ粕を活用することで生産性に影響を及ぼすことなくGHGの排出を低減できることが示唆された。

## (2) 飼料作物関係

### ○炭素や堆肥を貯留した農地での飼料作物栽培体系の確立

(炭素や堆肥を貯留した農地での飼料作物栽培体系の確立)

炭素や堆肥を貯留した農地での飼料作物栽培体系を確立し、温室効果ガスを削減するためにバイオ炭(もみ殻くん炭)の施用が飼料作物の栽培に及ぼす影響を調査した。半量区と全量区のイタリアンライグラスおよびトウモロコシの生育や収量は、対照区と比べて有意差は認められず、バイオ炭の施用は、イタリアンライグラスおよびトウモロコシの収量性に影響を及ぼさなかった。

### ○子実用トウモロコシ安定多収生産技術の開発

(遅まき栽培向け子実用トウモロコシ品種選定試験)

神奈川県において、6月上旬から10月上旬まで栽培し、子実乾物収量が800kg/10aとなる品種および栽培方法を検討した。品種比較試験では、雌穂乾物収量は、P2105は889kg/10a、P1341は825kg/10aであり、目標収量の800kg/10a以上であった。栽植密度比較試験では、子実乾物収量は、栽植密度が高い方が多く、KD551を8,333本/10aで栽培すると目標収量の800kg/10aに達した。

### ○子実用トウモロコシ安定多収生産技術の開発

(冬作栽培地域における子実トウモロコシ栽培試験)

三浦半島における、ダイコンの品質に影響を及ぼさないダイコンと子実トウモロコシの二毛作の栽培方法について検討した。トウモロコシの収穫時(絹糸抽出後63日)の子実含水率の平均値は14.5%、乾物収量の平均値は1,123kg/10aであり、土壌に還元できる茎葉の乾物重量は1,118kg/10aであった。ダイコンの全長、根長、葉長、根径、全重、根重、葉重は、試験区間において有意差は認められなかった。ダイコンは、ネグサレセンチュウによる被害が発生したが、土壌処理した試験区では発生しなかった。

### ○イタリアンライグラス系統適応性検定試験

(関東南部における環境耐性等に優れるイタリアンライグラス新規系統の評価)

耐環境性に優れるイタリアンライグラスの九州5号および那系38号について、関東南部における地域適応性を検討した。九州5号および那系38号の1番草の倒伏程度は、はたあおばと同程度であった。試験期間中、供試したすべての系統・品種にいち病等の病害は発生しなかった。1番草と2番草の合計の乾物収量は、九州5号は1,500kg/10a、那系38号は1,539kg/10aであり、はたあおばと比較して、九州5号は7%、那系38号は5%少なかった。

## (3) 養豚関係

### ○系統豚を利用した高品質豚肉生産技術の確立

(維持集団における近交係数の変化に伴う各能力の変化)

当所で造成したランドレース種系統豚「ユメカナエル」の維持集団の大きさは認定時と同じ種雄豚10頭、種雌豚35頭とした。維持集団の血縁係数は32.45%、近交係数は14.08%、遺伝的寄与率変動係数は1.25、一腹平均総産子数は10.6頭、3週齢平均体重は6.0kg、管囲は雄が18.0cm、雌が17.2cmであり、認定時の遺伝的構成を大きく変えることなく、繁殖能力や体型の特徴を維持していると考えられた。

(系統豚を利用した改良型種豚の各能力の変化(1))

ユメカナエルに外部導入種雄豚を交配して作出した改良型種豚雌(LLL)に大ヨークシャー種雄(W)を交配した場合の2産から4産の繁殖性と、得られた産子(LLLW)の100kg到達時の産肉性および体型を調査した。LLLの繁殖性では、総産子数はMARKBが12.8頭で、ユメカナエルと比べて0.7頭多くなり、改良目標とした総産子数13頭を概ね達成することができた。LLLWの100kg到達時の産肉性および体型では、改良型種豚の作出に利用した外部導入種豚による差はなかった。

(系統豚を利用した改良型種豚の各能力の変化(2))

国内及び海外で改良されたランドレース種外部導入種雄豚3系統の液状精液を、それぞれユメカナエルに交配して得られた雄(LL)について、100kg到達時の産肉性および体型を調査した。ユメカナエルと比較すると、100kg到達日齢ではフジカールは差が無く、イバボクルークが有意に延長した。管囲ではフジルークが有意に太かった。以上から、系統ごとのLLの産肉性および体型の特徴が明らかとなった。

○機能性素材を利用した離乳期子豚の発育改善効果の検証

(バニラ抽出粕の飼料添加が離乳期子豚の生産性に及ぼす影響)

バニラ抽出粕を人工乳に添加し、離乳期子豚の生産性、ふん便性状、ふん便中の腸内細菌叢に及ぼす影響を調査した。バニラ抽出粕添加飼料給与期間中における体重、一日増体量、飼料摂取量、飼料要求率では試験区間に有意な差は無かったが、給与終了30日後の体重では対照区に比較して、バニラ区が大きかった。調査28日目のふん便では、対照区に比較して、バニラ区で腸内細菌叢の多様性が高まり、繊維分解菌の占有率が増加した。以上から、バニラ抽出粕は離乳期子豚の腸内細菌叢を改善し、生産性を向上させることが示唆された。

○環境要因が種雄豚精液性状に与える影響

(環境要因が種雄豚精液性状に与える影響)

ランドレース種種雄豚の精液性状の変化について、2豚舎、各4頭に対して2週間に1回継続して調査を行った。いずれの豚舎も8月上・中旬には豚舎内温度が35℃を上回るとともに、精子生存指数、精子濃度が減少し、また、精子奇形率が上昇する個体がみられた。

(4) 養鶏関係)

○「足柄茶」の加工残さ給与による「かながわ鶏」の鮮度維持効果及び肉質への影響

(「足柄茶」の加工残さ給与による「かながわ鶏」の鮮度維持効果及び肉質への影響)

抗酸化作用による鶏肉の鮮度維持効果を検討するため、飼料にそれぞれ5%、10%の足柄茶加工残さを添加して「かながわ鶏」に6週間給与した。茶添加区は増体量及び育成率が低下し、むね肉のビタミンE含量、カテキン含量、ドリップロス、冷解凍ロス、過酸化脂質量及び抗酸化活性に差はなかった。以上の結果より、足柄茶加工残さの給与による鶏肉の鮮度維持効果は認められなかった。

○かながわ鶏の高付加価値化のための飼養管理技術の開発

(飼料添加による肉質及び機能性向上に関する研究)

未利用資材である海苔加工残さを2.5%、5%飼料添加し、「かながわ鶏」に6週間給与することで、保水性向上等の肉質への影響を検証した。その結果、海苔添加区は対照区に比べ、増体量が低く、飼料要求率が高値を示した。海苔添加区でむね肉の水分は増加し、粗脂肪は低下したが、むね肉重量に有意な差は認められなかった。また、海苔添加区でドリップロス、クッキングロス及びせん断力価が低値を示していたが、有意な差は認められなかった。

○アニマルウェルフェアに即した飼養管理による採卵鶏の生産性向上に関する研究

(飼養ケージシステムの違いが採卵鶏の生産性、卵質に及ぼす影響(県内主要鶏種))

従来型ケージ(CC)、平飼い(CF)、エンリッチドケージ(EC)で飼育された採卵鶏の生産性と福祉特性を比較した。生産性の面では、CF区はEC区よりも飼料摂取量、汚卵率及び破卵率が悪化し、CC区よりも飼料要求率、汚卵率及び破卵率が悪化した。EC区は破卵率がCC区より悪化した。福祉特性では、CF区は最もフェザースコアが良好で爪が短く、EC区はCC区よりも爪が短かった。

○鶏舎での暑熱対策技術の開発

(自動散水システムによる鶏の暑熱対策の検討)

ワンボードマイコン（Arduino Uno）と温湿度センサーモジュール（DHT22）、電磁弁（ADK11-10A）を用いて、低価格で自作可能な自動散水システムを開発した。また、来年度に実用性を評価するため、対照データとしてシステム設置予定の鶏舎内外の温湿度を調査した。

#### （５）畜産環境関係

##### ○開放畜舎での臭気抑制技術の開発

（開放型豚舎の環境調査および換気方法の検討（肥育実験棟、環境調査））

開放型畜舎の臭気抑制を目的として、畜舎内の気流及び臭気分布を調査した。畜舎内の気流および臭気分布は外気の影響を強く受けて偏在することが確認された。

（開放型豚舎の環境調査および換気方法の検討（肥育実験棟、臭気集約方法の検討））

開放型畜舎の臭気抑制を目的として、送風機や窓開閉条件による気流制御手法を検討した。臭気は気流の影響を強く受けて滞留・偏在することが確認され、送風機配置の工夫により臭気の集約が可能であることが示唆された。

（開放型豚舎の環境調査および換気方法の検討（肥育実験棟、脱臭試験を実施するための条件検討））

開放型畜舎にて行う脱臭装置の性能評価に向け、模擬的な臭気発生試験により臭気増加を図った。育成豚の収容では畜舎全体に著しい臭気の増加がみられた。より簡便な代替法として行った排せつ物の嫌気発酵では、あまり臭気の増加は見られなかった。これらの結果から、脱臭装置の性能評価の条件として、育成豚の収容が適切であると考えられた。

（開放型豚舎の環境調査および換気方法の検討（新系統豚選抜豚舎））

東西延長で南北にカーテンが設置されている新系統豚選抜豚舎で環境調査を実施した。外気により臭気が風下へ拡散および滞留していたため、次年度は風下における簡易的な脱臭方法を検討する。

##### ○家畜用浄化槽の低コスト改修技術の実証

（家畜用浄化槽の曝気量制御による低コスト運転技術の確立（角形回分式浄化槽））

回分式活性汚泥浄化槽において、DOセンサーを用いたDO制御システムの浄化処理への影響、消費電力量等を調査した。高負荷（BOD容積負荷 $0.39 \sim 0.47 \text{ kg/m}^3 \cdot \text{日}$ ）の処理水性状はBOD、SS、硝酸態窒素等、全ての区で、水質汚濁防止法の一般排水基準値以下であった。処理水のSSは高負荷（BOD容積負荷 $0.47 \text{ kg/m}^3 \cdot \text{日}$ ）で一時的に高値となったが、水温の低下から汚泥の沈降性が悪化し処理水に混入したためと考えられる。以上のことから、高負荷では曝気工程の全工程をDO制御運転とし、冬季はMLSSを適正に保つことで、回分式活性汚泥浄化槽のDO制御運転におけるBOD容積負荷は、高負荷である $0.39 \sim 0.47 \text{ kg/m}^3 \cdot \text{日}$ 程度の範囲でも処理が可能であると考えられる。

（家畜用浄化槽の曝気量制御による低コスト運転技術の確立（オキシデーションディッチ型回分式浄化槽））

オキシデーションディッチ型回分式浄化槽において、DOセンサーを用いたDO制御システムの浄化処理への影響、消費電力量等を調査した。DO制御システムによるDO制御曝気運転は、浄化槽の性能に影響を与えることなく、BOD 1 kgあたりの消費電力量は回分サイクルの曝気工程を連続曝気運転した場合と比較して58.2%削減された。

## IV 普及指導

### 1 令和7年度普及指導計画

#### ■担い手の育成・確保に関する支援

- 重点 畜産後継者の育成【R4～R7】
  - 〈要請〉畜産後継者グループの活動に対する支援
  - 〈要請〉新規就農者希望者や認定農業者等に対する支援
  - 〈要請〉畜産に携わる女性集団に対する支援

#### ■県民ニーズに応じた安全・安心な農畜産物の生産・販売の取組に対する支援

- 重点 計画的な繁殖・飼料改善による酪農経営の改善支援【R7～R11】
- 一般 OPUを活用した優良系統牛からの後継牛確保支援【R7～R11】
- 一般 牛乳商品化・販売促進活動の取組み支援【R7～R9】
- 一般 肉牛経営における収益性の向上支援【R7～R9】
- 一般 良質豚肉の安定生産に向けた支援【R4～R8】
- 一般 農場HACCP、家畜・畜産物JGAPの取組みに対する支援【R5～R6】
  - 〈要請〉乳用子牛の適正な育成に対する支援
  - 〈要請〉養豚経営における収益性の向上支援
  - 〈要請〉家畜の改良に関する支援
  - 〈要請〉6次産業化に関する支援

#### ■スマート農業の取組に対する支援

- 一般 スマート畜産技術の活用に関する支援【R4～R8】

#### ■気候変動への対応等環境対策や自然災害等への取組に対する支援

- 一般 社会情勢の変化等による影響を受けた畜産経営に対する支援（飼料自給率の向上）【R4～R8】
- 一般 社会情勢の変化等による影響を受けた畜産経営に対する支援（未利用資源の飼料化）【R4～R8】
- 一般 畜産環境対策の取組に対する支援【R4～R8】
  - 〈要請〉飼養環境改善に取り組む畜産経営に対する支援

#### ■地域農業の振興を図るための取組に対する支援

- 〈要請〉畜産物の販売促進活動等に対する支援
- 〈要請〉市町村等の取組に対する支援
- 〈要請〉地域畜産物の販売促進に向けた食育活動の推進

## 2 令和7年度普及活動の概要

### (1) 担い手の育成・確保に関する支援

#### ア 畜産後継者の育成

多様な担い手の育成・確保及び経営発展段階に応じた支援により、次世代のかながわ農業の中核を担う農業経営者の育成を行った。

就農後5年以内の新規就農者に対して、農業基礎セミナーとして集合研修、個別巡回指導、視察研修会を実施した。

経営確立準備段階にある若手農業者に対しては、ステップアップセミナーとして個別巡回指導を通して経営ビジョン作成に向けた支援を行った。

経営発展を目指す中核的な経営体に対しては、経営ビジョン達成を目指し、支援を行った。

また、各段階のセミナー生を対象に先進事例の視察研修会を開催し、セミナー生同士の交流を深めた。

### (2) 県民ニーズに応じた安全・安心な農畜産物の生産・販売の取り組みに対する支援

#### ア 計画的な繁殖・飼料改善による酪農経営の改善支援

関係機関及びコンサルタントとの連携により支援チームを設置し、対象経営体の経営改善に向けた支援を行った。現地指導やWEB会議で経営体の取組を支援した結果、飼養管理の改善が図られ、乳量の増加につながった。

#### イ OPUを活用した優良系統牛からの後継牛確保支援

酪農経営体からのOPUによる後継牛生産の要望に対し、診療獣医師や家畜保健衛生所と連携して繁殖機能や健康状態を把握するための事前調査を行い、飼養管理改善の指導を行うとともに牛の状態に合わせたホルモン処理方法を選択するなど、採卵計画の作成を支援した。

#### ウ 牛乳商品化・販売促進活動の取組支援

伊勢原産の酪農家の生乳で生産した「いせはら地ミルク」の認知度向上のため、販売促進活動と酪農の理解醸成を支援した。

#### エ 肉用牛経営における収益性の向上支援

枝肉品質の改善支援のため枝肉の脂肪酸測定を行い、血統及び枝肉格付けデータを取りまとめて情報提供を行った。併せて肥育素牛の損耗防止対策、和牛子牛の飼養管理技術向上の取組を支援した。

#### オ 良質豚肉の安定生産に向けた支援

豚肉の品質等の現状把握や種豚改良の効果の確認のために、脂肪酸組成、筋肉内脂肪含量、脂肪融点等の分析や、ロース肉のせん断力価、枝肉断面写真などのデータを取りまとめた。調査結果をもとに講習会を開催し、各経営体の現状の把握と改善点等の検討を行った。また、良質豚肉を目指す経営体に対し目標設定や計画作成を支援した。

#### カ 農場HACCP、家畜・畜産物JGAP取組に対する支援

肉用牛、酪農の5経営体に対し、HACCPシステムの運用や構築について支援を行った。

JGAPは酪農家1経営体が取得しており、システム運用の支援を行った。

### (3) スマート農業の取組に対する支援

#### ア スマート畜産技術の活用に関する支援

哺乳ロボットを導入した酪農家1経営体への巡回指導を行い、衛生対策の支援を行なった。また、

導入後の子牛の発育状況を調査し、飼養管理について支援を行なった。

(4) 気候変動への対応等環境対策や自然災害等への取り組みに対する支援

ア 社会情勢の変化等による影響を受けた畜産経営に対する支援

(ア) 飼料自給率の向上

飼料自給率の向上を目指し自給飼料生産に取り組む酪農経営体の支援を行った。

稲WCSの飼料価値の算出、飼料用トウモロコシのツマジロクサヨトウ対策等を行った。

(イ) 未利用資源の飼料化

未利用資源の活用により飼料確保の安定化と飼料費削減を図る経営体の支援を行った。

肉用牛、養豚、養鶏の16経営体についてエコフィードの利用状況を確認し、必要に応じて情報を提供し、活用方法について支援した。

イ 畜産環境対策の取組に対する支援

市町等が実施する環境巡回を通じ、畜産環境対策の意識向上を促すとともに、畜産経営に起因する環境問題が発生した際に改善に取り組む経営体を支援した。

また、関係機関と連携し、耕種部門と畜産部門のマッチングや堆肥のPRを実施することで、家畜ふん堆肥の円滑な流通を支援した。

ウ 酪農経営体への暑熱対策改善支援

酪農経営では、夏季の高温が乳量の著減、乳質の悪化、繁殖成績低下、死亡事故の発生等、大きな問題となっている。そこで、環境測定により牛舎内の状況を把握し、より効果的な対策を講じられるよう支援した。

(5) その他

ア 食育活動の支援

酪農では生産者団体が実施する食育授業において、ふれあい体験等を通じて児童への酪農の理解醸成活動を支援した。

養豚では県内小学校(3校)で生産者団体が実施する食育授業において、授業の一部を担当するなどの支援を実施するとともに「かながわ畜産の日」の啓発を行った。

イ 各種共進会に対する支援

畜産共進会は家畜の体型や畜産物の品質を審査し、家畜改良や日頃の飼養管理の成果を評価するもので、農家同士が交流し、互いに技術を高めあう場でもある。県、各市町、各農業協同組合で開催される共進会において、審査や審査補助などの支援を行った。

ウ 新規就農希望者や認定農業者に対する支援

県内市町村の認定農業者にかかる農業経営改善計画に対する助言指導を行った。今年度は44経営体の再認定を支援した。

また、1経営体について、認定新規就農者認定にかかる青年等就農計画作成の助言指導を行った。

## V 飼料検査・家畜改良等

### 1 飼料検査業務

#### (1) 飼料検査指導事業

県畜産課が実施する飼料の安全性確保及び品質の改善に関する法律に基づく飼料製造業者、販売業者を対象とした立入検査における収去物の分析を実施した。

立入検査場所：6箇所、収去件数：13検体、分析項目：重金属検査（鉛13点、カドミウム13点）

#### (2) 自給飼料対策事業

新たに確保した飼料原料（粗飼料・エコフィード）について、県内畜産農家等で飼料利用するために必要な成分分析を実施した。

分析件数：24検体

### 2 家畜育種改良関連業務

#### (1) 牛胚移植実績（大家畜）

胚移植技術の実用化の促進と、肥育素牛の生産、優良牛遺伝資源の増殖を図るために、当所飼養の黒毛和種供胚牛から採取した牛胚を、獣医師及び人工授精師が県内農家の受胚牛に移植した。

移植頭数と受胎状況 (R8. 3. 31 現在)

|        | 移植頭数 | 受胎頭数 | 不受胎頭数 | 受胎率    | (R8. 3. 31現在 不明) |
|--------|------|------|-------|--------|------------------|
| 体内生産胚  | 14 頭 | 7 頭  | 7 頭   | 50.0 % | 0 頭              |
| (うち所内) | 14 頭 | 7 頭  | 7 頭   | 50.0 % |                  |
| 体外生産胚  | 17 頭 | 5 頭  | 12 頭  | 29.4 % |                  |
| (うち所内) | 17 頭 | 5 頭  | 12 頭  | 29.4 % |                  |

地域別移植状況 (R8. 3. 31 現在)

| 家畜保健衛生所名 | 移植頭数            |
|----------|-----------------|
| 湘南       | 0 頭             |
| 県央       | 31 頭 (うち所内31 頭) |
| 合計       | 31 頭            |

#### (2) 優良系統豚利用推進事業

優れた繁殖能力と県内の飼養環境に適した強健性を持つランドレース種系統豚「ユメカナエル」が平成15年度に完成し、高い能力と遺伝的特徴を変化させることなく系統を維持するとともに、系統豚を育成選抜して県内生産者に供給している。

種豚飼育頭数と総産子数、配布頭数 (R8. 3. 31 現在)

| 項目   | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1  | R2  | R3  | R4  | R5  | R6  | R7  |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 種雄豚数 | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  | 10  |
| 種雌豚数 | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  | 35  |
| 分娩頭数 | 66  | 77  | 68  | 68  | 56  | 63  | 57  | 65  | 58  | 69  | 70  | 64  | 58  | 48  | 75  | 76  | 61  | 55  | 61  | 56  | 67  | 60  | 60  |
| 総産子数 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ♂    | 353 | 404 | 411 | 367 | 294 | 341 | 297 | 398 | 325 | 353 | 348 | 342 | 330 | 266 | 379 | 379 | 365 | 293 | 319 | 334 | 308 | 325 | 324 |
| ♀    | 302 | 394 | 346 | 318 | 297 | 302 | 303 | 316 | 318 | 373 | 358 | 343 | 291 | 245 | 330 | 349 | 309 | 259 | 316 | 300 | 369 | 294 | 312 |
| 配布頭数 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ♂    | 2   | 0   | 5   | 1   | 2   | 0   | 1   | 0   | 0   | 0   | 0   | 2   | 2   | 4   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| ♀    | 57  | 44  | 62  | 62  | 42  | 45  | 40  | 28  | 39  | 36  | 45  | 50  | 46  | 47  | 12  | 0   | 22  | 14  | 0   | 21  | 40  | 46  | 50  |

### (3) かながわ酪農活性化対策事業

県内酪農家の経営改善と生産基盤の再生を目指すために、後継牛確保と肉用子牛生産を計画的に推進するための繁殖計画の普及を進めるとともに、新しい繁殖技術であるOPUを活用した酪農家における優良後継牛生産の現地実証を推進する。

- ・経済性を重視した後継牛のプランニング推進

モデル農家            2 戸

- ・新技術（OPU）を用いた効率的な後継牛確保対策

OPU実施頭数        7 頭

回収卵子数        65 個

移植可能胚数       12 個

### (4) 「かながわ鶏」の推進（ヒナの配付）

消費者の地産地消志向の高まりと養鶏農家の経営多角化を支えるため、平成20年度から試験研究に取り組み、平成27年度に県内初の肉用鶏「かながわ鶏」が完成し、平成28年度から県内生産者にヒナを供給している。

ヒナの供給羽数        (R8. 3. 31 現在)

| 年度 | 28  | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     | 6     | 7     |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 羽数 | 854 | 3,315 | 5,270 | 2,150 | 5,650 | 6,620 | 7,470 | 8,340 | 6,636 | 7,120 |

## VI 研究発表・広報・技術指導

### 1 試験研究・普及活動の成果

#### (1) 刊行物

|                              |          |
|------------------------------|----------|
| ○令和7年度 試験研究計画書               | 令和7年5月刊行 |
| ○令和6年度 試験研究成績書               | 令和7年5月刊行 |
| ○令和6年度 業務年報                  | 令和7年8月刊行 |
| ○畜産技術センターニュース                | 令和8年1月刊行 |
| ○令和6年度 普及活動実績                | 令和7年3月刊行 |
| ○神奈川県畜産技術センター研究報告第6号（通巻101号） | 令和8年3月刊行 |

#### (2) 試験成績検討会議（令和6年度試験研究実施課題）

ア 開催日：令和7年6月3日

イ 開催場所：畜産技術センター 情報管理室、オンライン（Zoom）

ウ 課題名

##### 【大家畜】

- ・生体センサを用いた繁殖管理に関する研究
- ・LCAを用いたエコフィードを活用した県内肥育牛用飼料の環境影響評価
- ・エコフィードを活用した肥育牛から発生する温室効果ガス抑制方法の検討

##### 【飼料作物】

- ・遅播き栽培向け子実用トウモロコシ品種選定試験

##### 【養鶏】

- ・飼料添加による肉質及び機能性向上に関する研究（かながわ鶏の高付加価値化の検討）
- ・採卵鶏へのエコフィード資材給与による生産性への影響

##### 【経営】

- ・生産指標による養豚経営改善方法についての検討（養豚ベンチマーキング）

##### 【畜産環境】

- ・開放型畜舎の環境調査および換気方法の検討（臭気抑制技術の検討）
- ・家畜用浄化槽の曝気量制御による低コスト運転技術の確立

##### 【養豚】

- ・系統豚を利用した改良型種豚の開発
- ・地下水を利用した冷却パネルの設置が暑熱期の授乳期母豚に及ぼす影響の評価

#### (3) 試験研究成果検討部会

行政機関、農業改良普及組織の参加により試験研究成果検討部会を開催し、令和6年度に実施した試験・研究課題のうち26課題について検討した。研究成果のうち普及奨励に値する情報を「成果－Ⅰ」とし、指導・研究に有効な情報を「成果－Ⅱ」として、「成果－Ⅰ」7課題、「成果－Ⅱ」3課題を選定した。

##### ア 普及奨励に値する情報（成果－Ⅰ）

- ・エコフィードを活用した肥育牛用飼料は、GHG排出量を削減する効果があります
- ・神奈川県での栽培に適した遅まき子実トウモロコシ品種を選定しました
- ・二期作の1作目の利用に適した春まきサイレージ用トウモロコシ品種
- ・単作または二毛作利用に適した遅播きサイレージ用トウモロコシ品種
- ・二期作の2作目の利用に適した夏播きサイレージ用トウモロコシ品種

- ・ランドレース種系統豚「ユメカナエル」は、認定時の遺伝的構成を大きく変えることなく、繁殖性や体型の特徴を維持しています
- ・養豚経営に関するアンケート結果を階層クラスター解析することで、生産者の生産成績と経営志向を客観的に評価できます

イ 指導・研究に有効な情報（成果－Ⅱ）

- ・輻射式冷房を応用した冷却パネルを分娩豚房に設置すると授乳期母豚の暑熱ストレスが軽減します
- ・ランドレース種系統豚「ユメカナエル」を活用した改良型種豚は、ユメカナエルと比較して、ロース断面積が大きく、総産子数が増加します
- ・乾燥パスタを配合飼料に10%混合してジュリアライトに給与すると、生産性に与える影響を少なくして飼料費を削減できます

（４）畜産技術検討会

生産者・市町村・畜産関係機関を対象として、現地で利用可能な研究・普及情報等の発表の場として開催した。

ア 酪農・肉用牛関係

（ア）開催日：令和8年2月6日

（イ）開催場所：神奈川県農業共済組合

（ウ）課題名等

- |                                      |             |
|--------------------------------------|-------------|
| ・生体センサによる分娩予測の検討                     | 企画研究課 秋山 清  |
| ・給与飼料の影響を考慮した肉用牛の消化管内発酵由来メタン排出量の推定方法 | 企画研究課 湯本 森矢 |
| ・県内子実トウモロコシの生産に向けた取組                 | 企画研究課 勝呂ゆりか |
| ・飼料用トウモロコシのツマジロクサヨトウ対策について           | 普及指導課 相内 幹浩 |

（エ）講演会

「子牛の疾病予防対策」 宮城県農業共済組合 第二事業部 次長 松田敬一 氏

イ 養鶏関係

（ア）開催日：令和7年12月12日

（イ）開催場所：ザ・ウイングス海老名

（ウ）課題名等

- |                                    |             |
|------------------------------------|-------------|
| ・アニマルウェルフェアに配慮した飼養方式による採卵鶏の生産性について | 企画研究課 板倉 一斗 |
| ・県産子実トウモロコシ生産に向けた取組について            | 企画研究課 白石 葉子 |
| ・鶏の暑熱対策について                        | 普及指導課 前田 高弘 |

（エ）意見交換会

- ・神奈川県内における高病原性鳥インフルエンザ防疫対策および発生時支援体制に関する要望について

ウ 養豚関係

（ア）開催日：令和8年3月27日

（イ）開催場所：レンブラントホテル海老名 2F プリマベアラ

（ウ）課題名等

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| ・家畜用浄化槽の適正管理と低コスト運転方法 | 企画研究課 齋藤 直美 |
| ・県産子実トウモロコシ生産に向けた取組   | 企画研究課 白石 葉子 |

- ・堆肥生産及び流通に係る情報提供 普及指導課 前田 高弘
- ・セグメント回帰分析による授乳期母豚の暑熱ストレスが発生する  
温度域の検索 企画研究課 折原健太郎

(エ) 講演会

- ・繁殖豚舎における母豚の暑熱対策技術について 企画研究課 中原 祐輔
- ・養豚場における暑熱対策のポイント 日本養豚事業協同組合専務理事 矢原 芳博 氏

(5) 農林水産技術会議

今後の試験研究推進に資するため、重点研究課題を対象に試験研究の計画段階・中間段階において、外部有識者・実務者から試験計画や試験研究成果、研究の進め方等について指導助言を受けた。

ア 研究課題設定部会

- (ア) 開催日 令和8年1月20日
- (イ) 開催場所 畜産技術センター 情報管理室
- (ウ) 検討課題 「アニマルウェルフェアに即した飼養管理による採卵鶏の生産性向上に関する研究」
- (エ) 検討委員 国立大学法人信州大学 農学部 教授 米倉 真一 氏  
有限会社第二十六作業所 代表取締役 鈴木 理央 氏  
一般社団法人神奈川県畜産会 常務理事 倉迫 豊 氏

イ 研究成果評価部会

開催なし

(6) 農林水産系研究機関研究成果発表会

開催なし

2 学会・研究会等の発表（抜けているものを記載する）

| 学会研究会名                | 開催場所                    | 年月日          | 演題名                                                  | 発表者                               |
|-----------------------|-------------------------|--------------|------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 日本畜産学会<br>第133回大会     | 岐阜大学<br>(岐阜市)           | 2025. 9. 4   | 給与飼料の影響を考慮した肉<br>用牛の消化管内発酵由来メタ<br>ン排出量の推定方法          | 企画研究課<br>湯本森矢、<br>折原健太郎<br>(共同発表) |
| 第9回日本胚<br>移植技術研究<br>会 | 広島県民文<br>化センター<br>(広島市) | 2025. 10. 30 | マイクロ流体デバイスにより<br>選別捕集したウシ精子による<br>OPU-IVF胚の生産        | 企画研究課<br>湯本森矢<br>秋山清<br>(共同発表)    |
| 第124回日本養<br>豚学会大会     | 明治大学<br>(川崎市)           | 2026. 3. 5   | ブタ精液の保存条件の違いが<br>equatorinの検出率および体外<br>受精後の受精率に及ぼす影響 | 企画研究課<br>中原祐輔<br>(共同発表)           |
|                       |                         | 2026. 3. 6   | 輻射式冷房を応用した授乳期<br>母豚の暑熱対策                             | 企画研究課<br>中原祐輔、<br>折原健太郎<br>(共同発表) |

### 3 特許出願

| 出願名 | 出願番号 | 発明者 |
|-----|------|-----|
| なし  |      |     |

### 4 雑誌等の発表

| 誌名             | 月及び号数              | 題名                                             | 執筆者                           |
|----------------|--------------------|------------------------------------------------|-------------------------------|
| 日本畜産学会報        | 95巻4号<br>333-338頁  | ホルスタイン種泌乳牛の乳中ホルチ<br>ゾール濃度に対する乳期、産歴、飼<br>養管理の影響 | 企画研究課<br>秋山清<br>折原健太郎<br>(共著) |
| 東京農業大学農学<br>集報 | 70巻3, 4号<br>37-46頁 | 競走馬の赤血球浸透圧脆弱性<br>(EOF) に及ぼす運動および脾臓機<br>能の影響    | 折原健太郎<br>(共著)                 |
| 畜産技術           | 840号<br>(2025年5月号) | 研究所だより                                         | 所長<br>坂上信忠                    |
|                | 844号<br>(2025年9月号) | 提言「連携強化で乗り切る」                                  | 所長<br>小菅知之                    |
| 養豚の友           | 2025年6月号           | 分娩豚房の床面冷却と子豚用保温箱<br>の放射熱低減を併用した授乳期母豚<br>の暑熱対策  | 企画研究課<br>中原祐輔                 |
| 神奈川畜産情報        | 5月号<br>(693号)      | 採卵鶏へのエコフィード（パスタ）<br>を利用した飼料費の低減方法              | 企画研究課<br>佐々木駿                 |
|                | 7月号<br>(694号)      | 冷却パネルを利用した授乳期母豚の<br>暑熱対策                       | 企画研究課<br>中原祐輔                 |
|                | 9月号<br>(695号)      | エコフィードを活用した肥育牛用飼<br>料の温室効果ガス排出量の削減効果           | 企画研究課<br>湯本森矢                 |
|                | 11月号<br>(696号)     | 家畜用浄化槽の曝気コントロールで<br>電気使用量が削減できます               | 企画研究課<br>齋藤直美                 |
|                | 3月号<br>(697号)      | 飼料用トウモロコシにおける「ツマ<br>ジロクサヨトウ」の防除について            | 普及指導課<br>相内幹浩                 |
| J A 神奈川つくい     | 6月号                | これからの季節にサシバエ対策！～<br>大切な牛を病気やストレスから守り<br>ましょう～  | 普及指導課<br>相内幹浩                 |
| J A 湘南         | 1月号                | 飼料用トウモロコシの害虫「ツマジ<br>ロクサヨトウ」の対策について             | 普及指導課<br>相内幹浩                 |
| 普及現地情報         | 5月                 | 横浜食肉市場ミート・フェアが開催<br>されました                      | 普及指導課                         |
|                | 5月                 | 令和7年度神奈川県肉豚共進会が開<br>催されました                     | 普及指導課                         |
|                | 6月                 | 令和7年度「牛乳の日イベント in 花<br>菜ガーデン」が開催されました          | 普及指導課                         |
|                | 6月                 | 農業セミナー（畜産コース）開校式<br>を開催しました。                   | 普及指導課                         |
|                | 7月                 | 令和7年度営農指導協議会畜産技術<br>研修会（視察研修会）が開催されま<br>した     | 普及指導課                         |

|      |                                    |       |
|------|------------------------------------|-------|
| 7 月  | 令和 7 年度「サイエンスかながわ（一日獣医師体験）」を開催しました | 普及指導課 |
| 8 月  | 神奈川県学校農業クラブ連盟「家畜審査競技会」が開催されました     | 普及指導課 |
| 10 月 | 第 16 回全日本ホルスタイン共進会（北海道大会）が開催されました  | 普及指導課 |
| 12 月 | 県内各地で鶏卵品評会や乳牛共進会が開催されました           | 普及指導課 |
| 1 月  | 第 16 回神奈川県わくわくモーモースクールが開催されました     | 普及指導課 |
| 2 月  | 養豚（やまゆりパーク）の食育授業が開催されました           | 普及指導課 |
| 3 月  | 県内の新規就農者を対象に現地視察研修会を開催しました         | 普及指導課 |

## 5 報道関係の取材・放送

| 取材社   | 取材日             | 取材内容等            | 対応         |
|-------|-----------------|------------------|------------|
| 中央畜産会 | 令和 7 年 9 月 22 日 | がんばる！畜産！9 たまご 街道 | 普及指導課 前田高弘 |

## 6 技術相談、指導

関係機関からの依頼により実施した講演、審査、指導、相談等は次のとおりである。

| 部門    | 件数   | 内容          |
|-------|------|-------------|
| 畜産環境  | 18   | 水質分析、畜産相談   |
| 養鶏・経営 | 4    | 講演、講義、技術指導  |
| 大家畜   | 6    | 共進会審査、現地指導等 |
| 養豚    | 14   |             |
| 企画調整  | 12   |             |
| 普及指導  | 140  |             |
| 合計    | 194件 |             |

## 7 畜産技術研修

### （1）研究人材活性化対策事業

#### ア 研究高度化研修

なし

#### イ 研究推進支援研修

研修課題：「畜産臭気対策試験の技術指導研修」

研 修 者：企画研究課 湯本 田村 紗来

研修期間：令和 7 年 11 月 26 日

実施場所：畜産技術センター

研修内容：当所における畜産臭気関連の試験研究課題を円滑に行うため、予備調査の方法や畜舎から発生する臭気の脱臭装置の設計技術について会得し、令和 8 年度試験実施に向けてた現場・指導を受け、試験設計に生かすことができた。

(2) 地域畜産技術情報研究会

ア 開催日：令和7年6月30日

イ 開催場所：レンブラントホテル海老名

ウ テーマ：畜産分社における気候変動の影響とその対策

エ 講師：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門 阪谷 美樹 氏

(3) その他の受講研修

| 所属・氏名         | 研修場所                 | 期間            | 日数 | 研修名（内容）                        |
|---------------|----------------------|---------------|----|--------------------------------|
| 普及指導課<br>山本実可 | 家畜改良センター<br>中央畜産研修施設 | R7. 9. 24～26  | 3  | 中央畜産技術研修会（畜産環境保全（耕畜連携、堆肥利用促進）） |
| 企画研究課<br>田村紗来 | 家畜改良センター<br>中央畜産研修施設 | R7. 10. 28～31 | 4  | 中央畜産技術研修会（養豚）                  |
| 普及指導課<br>山本実可 | 家畜改良センター<br>中央畜産研修施設 | R7. 11. 10～14 | 5  | 中央畜産技術研修会（酪農）                  |
| 普及指導課<br>松尾綾子 | 家畜改良センター<br>中央畜産研修施設 | R7. 12. 19～12 | 5  | 中央畜産技術研修会（国内飼料）                |
| 企画研究課<br>田村紗来 | 家畜改良センター<br>中央畜産研修施設 | R8. 1. 13～15  | 3  | 中央畜産技術研修会（畜産環境保全（臭気対策技術））      |
| 企画研究課<br>齋藤直美 | 家畜改良センター<br>中央畜産研修施設 | R8. 2. 16～20  | 5  | 中央畜産技術研修会（畜産環境保全（畜産污水处理技術））    |

(4) 受け入れ研修

ア 短期受け入れ研修

麻布大学 8名

イ 職業体験学習・インターンシップ

鎌倉女学院高等学校 2名

ウ その他

なし

## 8 施設見学・施設公開等

(1) 施設見学来場者

| 対象          | 件数  | 人数   | 対象  | 件数  | 人数    |
|-------------|-----|------|-----|-----|-------|
| 農家及び農業関係者   | 0 件 | 0人   | 一般  | 1 件 | 1 人   |
| 児童生徒及び学校関係者 | 2 件 | 140人 | その他 | 1 件 | 3 人   |
|             |     |      | 合計  | 4 件 | 144 人 |

(2) 科学技術週間

なし

### (3) 一日獣医師体験

「家畜（乳牛）の診察をしてみよう」（サイエンスかながわ参加行事）

日 時：令和7年7月25日（金）

参加者：海老名市内小学5～6年生と保護者 25組（事前申し込み制）

内 容：身近な材料を利用した聴診器の作成、牛の聴診、尿検査、血液検査など

### (4) 施設公開

畜産技術センター・県央家畜保健衛生所ちょこっと体験ツアー

日 時：令和7年11月17日（日） 午前・午後 合計84名（27組）（事前申し込み制）

場 所：畜産技術センター、県央家畜保健衛生所（海老名市本郷3750、3658）

主 催：畜産技術センター、県央家畜保健衛生所、一般社団法人神奈川県畜産振興会

内 容：牛の展示、トラクターの試乗、バターづくり体験、畜産クイズ（畜舎からのWEB中継）、  
鶏卵や細胞の観察、両機関の業務内容や研究成果の紹介、県産畜産物の試食など

## 9 食育等に関する取り組み

県民に食の大切さや畜産及び研究への理解を深めてもらうため、生産者と共に食育活動を実施した。

### (1) 出前授業の実施状況

#### 【酪農】

| 開催日        | 主催                    | 市町   | 人数    |
|------------|-----------------------|------|-------|
| 12/3       | つくい酪農運営委員会            | 相模原市 | 17 人  |
| 12/10      | 神奈川県酪農教育ファーム<br>推進委員会 | 逗子市  | 293 人 |
| 1/29       | 茅ヶ崎市畜産会               | 茅ヶ崎市 | 103 人 |
| 2/5        | 平塚市酪農家                | 大磯町  | 90 人  |
| 2/10、13、19 | JA 湘南 角笛会             | 平塚市  | 250 人 |
| 2/24       | 秦野市畜産会                | 秦野市  | 90 人  |

#### 【養豚】

主催：やまゆりポーク生産者協議会、JA全農かながわ、JA全農くみあい飼料(株)、各市

| 市町村名 | 対象            |
|------|---------------|
| 藤沢市  | 60名（5年生、2クラス） |
| 平塚市  | 52名（4年生、2クラス） |
| 相模原市 | 68名（6年生、3クラス） |

## 10 収集資料

試験研究報告、統計資料、技術情報誌等冊（1月～12月）の収集を行い整理保管した。

| 分類            | 冊数 |
|---------------|----|
| 国・独法関係の研究報告書類 | 2  |
| 大学関係の研究報告書類   | 2  |
| 都道府県関係の研究報告書類 | 17 |
| 団体の研究報告書類     | 4  |
| 国内技術情報誌類      | 64 |
| 外国技術情報誌類      | 6  |
| その他寄贈雑誌等      | 1  |

## 11 表彰・受賞

職員の職務に関する表彰及び受賞

○公益社団法人畜産技術協会 優秀畜産技術者表彰

前田高弘

令和7年6月

## VII 付 表

### 1 飼養家畜家禽頭羽数 (生後 60日以上)

| 畜種別      | 性 | R7年度<br>当初<br>頭羽数 | 受入  |       |       | 払出  |           |       | R7年度末<br>頭羽数 |
|----------|---|-------------------|-----|-------|-------|-----|-----------|-------|--------------|
|          |   |                   | 生産  | 購買    | 小計    | 売却  | へい死<br>淘汰 | 小計    |              |
| ホルスタイン   | ♂ | 0                 | 1   | 0     | 1     | 0   | 0         | 0     | 1            |
|          | ♀ | 42                | 9   | 0     | 9     | 8   | 0         | 8     | 43           |
| 黒毛和種     | ♂ | 6                 | 1   | 0     | 1     | 1   | 0         | 1     | 6            |
|          | ♀ | 35                | 3   | 0     | 3     | 13  | 1         | 14    | 24           |
| 牛        | 計 | 67                | 21  | 12    | 33    | 17  | 0         | 17    | 83           |
| ランドレース   | ♂ | 52                | 255 | 0     | 255   | 239 | 9         | 248   | 59           |
|          | ♀ | 80                | 239 | 0     | 239   | 234 | 15        | 249   | 70           |
| 大ヨークシャー  | ♂ | 4                 | 34  | 0     | 34    | 27  | 1         | 28    | 10           |
|          | ♀ | 5                 | 43  | 0     | 43    | 35  | 1         | 36    | 12           |
| デュロック    | ♂ | 6                 | 16  | 0     | 16    | 18  | 1         | 19    | 3            |
|          | ♀ | 8                 | 11  | 0     | 11    | 16  | 0         | 16    | 3            |
| 雑種       | ♂ | 23                | 141 | 0     | 141   | 126 | 8         | 134   | 30           |
|          | ♀ | 20                | 121 | 0     | 121   | 117 | 9         | 126   | 15           |
| 豚        | 計 | 198               | 860 | 0     | 860   | 812 | 44        | 856   | 202          |
| ジュリアライト  | ♀ | 662               | 0   | 379   | 379   | 0   | 663       | 663   | 378          |
| ボリスブラウン  | ♀ | 658               | 0   | 379   | 379   | 0   | 659       | 659   | 378          |
| 岡崎おうはん   | ♀ | 484               | 0   | 483   | 483   | 0   | 496       | 496   | 471          |
| シャモ833系統 | ♂ | 52                | 0   | 136   | 136   | 0   | 130       | 130   | 58           |
| 鶏        | 計 | 1,856             | 0   | 1,377 | 1,377 | 0   | 1,948     | 1,948 | 1,285        |

## 2 令和7年度気象表

## 気 象 表

観測点：畜産技術センター

| 月 旬         |   | 平均気温(℃) |      | 最高気温(℃) |      | 最低気温(℃) |      | 日照時間 (hour) |        | 降水量 (mm) |        |
|-------------|---|---------|------|---------|------|---------|------|-------------|--------|----------|--------|
|             |   | 本年      | 平年   | 本年      | 平年   | 本年      | 平年   | 本年          | 平年     | 本年       | 平年     |
| 2025年<br>4月 | 上 | 12.1    | 12.8 | 17.4    | 18.0 | 6.2     | 7.1  | 51.8        | 63.1   | 39.5     | 46.6   |
|             | 中 | 16.6    | 14.7 | 21.9    | 19.8 | 10.8    | 9.5  | 69.1        | 53.2   | 39.5     | 52.6   |
|             | 下 | 17.6    | 16.0 | 22.9    | 20.9 | 12.1    | 11.0 | 59.0        | 60.0   | 34.5     | 34.9   |
| 平均又は合計      |   | 15.4    | 14.5 | 20.7    | 19.6 | 9.7     | 9.2  | 179.9       | 176.3  | 113.5    | 134.1  |
| 5月          | 上 | 17.6    | 17.9 | 23.0    | 22.8 | 13.0    | 12.9 | 59.0        | 61.6   | 66.5     | 37.6   |
|             | 中 | 20.8    | 18.7 | 25.7    | 23.3 | 16.4    | 14.2 | 52.4        | 50.0   | 39.0     | 48.6   |
|             | 下 | 19.4    | 20.1 | 23.6    | 24.8 | 15.9    | 15.8 | 27.5        | 63.5   | 72.0     | 48.3   |
| 平均又は合計      |   | 19.3    | 18.9 | 24.1    | 23.7 | 15.1    | 14.3 | 138.9       | 175.2  | 177.5    | 134.5  |
| 6月          | 上 | 20.0    | 21.0 | 25.4    | 25.5 | 18.2    | 17.0 | 44.5        | 48.5   | 29.5     | 46.0   |
|             | 中 | 25.5    | 21.9 | 30.1    | 25.9 | 22.2    | 18.6 | 60.6        | 36.1   | 28.5     | 54.1   |
|             | 下 | 27.2    | 23.4 | 32.2    | 27.5 | 23.4    | 20.3 | 85.7        | 35.7   | 25.5     | 50.8   |
| 平均又は合計      |   | 24.2    | 22.1 | 29.2    | 26.3 | 21.2    | 18.6 | 190.8       | 120.3  | 83.5     | 150.9  |
| 7月          | 上 | 28.3    | 24.9 | 33.8    | 29.0 | 24.7    | 21.7 | 82.4        | 37.3   | 11.5     | 67.0   |
|             | 中 | 26.7    | 26.2 | 31.0    | 30.5 | 23.1    | 22.7 | 55.6        | 51.5   | 15.0     | 54.2   |
|             | 下 | 29.3    | 26.5 | 34.6    | 30.8 | 24.2    | 23.1 | 130.2       | 58.6   | 0.0      | 53.2   |
| 平均又は合計      |   | 28.1    | 25.9 | 33.2    | 30.1 | 24.0    | 22.5 | 268.2       | 147.3  | 26.5     | 174.3  |
| 8月          | 上 | 30.0    | 27.7 | 35.3    | 32.2 | 26.2    | 24.0 | 75.1        | 67.4   | 73.0     | 38.6   |
|             | 中 | 28.5    | 27.3 | 33.1    | 31.8 | 24.9    | 23.8 | 66.2        | 59.7   | 25.0     | 61.1   |
|             | 下 | 29.7    | 26.5 | 35.5    | 31.0 | 25.2    | 23.0 | 106.1       | 58.9   | 0.0      | 69.4   |
| 平均又は合計      |   | 29.4    | 27.1 | 34.7    | 31.6 | 25.4    | 23.6 | 247.4       | 186.1  | 98.0     | 169.1  |
| 9月          | 上 | 28.2    | 25.3 | 32.5    | 29.7 | 24.5    | 22.0 | 79.5        | 48.3   | 106.0    | 75.0   |
|             | 中 | 26.8    | 24.4 | 31.2    | 28.8 | 23.3    | 20.9 | 30.8        | 51.0   | 68.0     | 83.0   |
|             | 下 | 24.6    | 21.9 | 30.1    | 26.4 | 20.4    | 18.4 | 60.7        | 44.2   | 3.5      | 57.9   |
| 平均又は合計      |   | 26.5    | 23.9 | 31.3    | 28.3 | 22.8    | 20.4 | 171.0       | 143.5  | 177.5    | 215.9  |
| 10月         | 上 | 22.5    | 20.4 | 27.2    | 24.9 | 19.2    | 16.8 | 34.6        | 42.3   | 11.5     | 100.0  |
|             | 中 | 19.7    | 18.4 | 23.9    | 23.0 | 16.2    | 14.6 | 17.4        | 47.0   | 13.0     | 51.9   |
|             | 下 | 14.8    | 16.3 | 18.3    | 21.1 | 12.4    | 12.1 | 21.7        | 54.1   | 38.0     | 44.7   |
| 平均又は合計      |   | 18.8    | 18.3 | 23.0    | 23.0 | 15.8    | 14.4 | 73.7        | 143.4  | 62.5     | 196.6  |
| 11月         | 上 | 14.2    | 15.0 | 19.8    | 20.1 | 9.1     | 10.3 | 40.7        | 50.1   | 7.0      | 23.0   |
|             | 中 | 11.8    | 12.6 | 17.9    | 17.5 | 6.3     | 7.8  | 55.8        | 48.4   | 3.0      | 31.6   |
|             | 下 | 11.2    | 11.0 | 18.0    | 16.4 | 4.5     | 5.8  | 69.3        | 51.9   | 0.0      | 20.9   |
| 平均又は合計      |   | 12.4    | 12.9 | 18.5    | 18.0 | 6.6     | 8.0  | 165.8       | 150.4  | 10.0     | 75.5   |
| 12月         | 上 | 9.1     | 8.9  | 16.3    | 14.2 | 2.3     | 3.8  | 63.2        | 51.6   | 0.0      | 20.5   |
|             | 中 | 7.8     | 7.2  | 14.1    | 13.1 | 2.0     | 1.4  | 55.7        | 57.6   | 18.0     | 16.1   |
|             | 下 | 7.7     | 6.1  | 13.1    | 12.2 | 2.2     | 0.1  | 50.5        | 67.7   | 8.5      | 17.0   |
| 平均又は合計      |   | 8.2     | 7.4  | 14.5    | 13.1 | 2.2     | 1.7  | 169.4       | 176.9  | 26.5     | 53.6   |
| 2025年<br>1月 | 上 | 5.2     | 5.1  | 12.4    | 11.4 | -1.8    | -1.2 | 76.9        | 65.2   | 0.0      | 8.0    |
|             | 中 | 7.4     | 4.9  | 14.4    | 10.8 | 0.2     | -0.7 | 78.7        | 57.7   | 0.0      | 15.5   |
|             | 下 | 3.2     | 5.1  | 9.8     | 10.8 | -3.6    | -0.7 | 76.9        | 64.6   | 0.0      | 25.3   |
| 平均又は合計      |   | 5.2     | 5.0  | 12.1    | 11.0 | -1.8    | -0.9 | 232.5       | 187.5  | 0.0      | 48.9   |
| 2月          | 上 | 4.4     | 5.2  | 11.3    | 10.9 | -2.6    | -0.3 | 68.9        | 57.2   | 2.0      | 17.2   |
|             | 中 | 10.5    | 6.0  | 13.8    | 11.6 | 1.5     | 0.3  | 55.8        | 57.8   | 6.0      | 19.0   |
|             | 下 | 11.9    | 7.1  | 18.2    | 12.6 | 6.3     | 1.6  | 47.7        | 50.9   | 36.0     | 17.9   |
| 平均又は合計      |   | 8.7     | 6.1  | 14.1    | 11.7 | 1.4     | 0.5  | 172.4       | 165.8  | 44.0     | 54.1   |
| 3月          | 上 | 9.3     | 8.3  | 14.9    | 13.6 | 4.1     | 3.0  | 56.4        | 50.8   | 43.0     | 43.6   |
|             | 中 | 9.8     | 10.1 | 15.0    | 15.5 | 4.9     | 4.1  | 44.5        | 62.5   | 4.5      | 30.8   |
|             | 下 | 12.9    | 10.8 | 18.0    | 15.9 | 8.5     | 5.3  | 62.9        | 59.7   | 57.0     | 43.5   |
| 平均又は合計      |   | 10.8    | 9.8  | 16.0    | 15.0 | 5.9     | 4.2  | 163.8       | 173.0  | 104.5    | 117.9  |
| 平均又は合計      |   | 17.3    | 16.0 | 22.7    | 21.0 | 12.4    | 11.4 | 2173.8      | 1945.6 | 924.0    | 1525.5 |

### 3 職員配置

( R7.4.1 現在)

所 長 小菅 知之

副所長(再任用) 内山 敦子

[管理課] (3人、再任用1人、会計年度任用職員1人)

|            |       |
|------------|-------|
| 課長(兼)(再任用) | 内山 敦子 |
| 主査         | 吉田 昌樹 |
| 主事         | 中島 寛己 |
| 主事         | 近藤 司  |
| 会計年度任用職員1人 |       |

企画指導部長 仲澤 慶紀

[企画研究課] (11人、再任用1人、会計年度任用職員1人)

|    |        |
|----|--------|
| 課長 | 折原 健太郎 |
|----|--------|

[企画調整グループ]

|            |       |
|------------|-------|
| 主任研究員      | 白石 葉子 |
| 会計年度任用職員1人 |       |

[養鶏・経営グループ]

|    |       |
|----|-------|
| 技師 | 板倉 一斗 |
| 技師 | 佐々木 駿 |

[大家畜グループ]

|            |        |
|------------|--------|
| 主任研究員(再任用) | 秋山 清   |
| 技師         | 湯本 森矢  |
| 臨時技師       | 勝呂 ゆりか |

[養豚グループ]

|       |        |
|-------|--------|
| 専門研究員 | 喜多 浩一郎 |
| 主任研究員 | 中原 祐輔  |

[環境グループ]

|       |       |
|-------|-------|
| 主任研究員 | 齋藤 直美 |
| 技師    | 田村 紗来 |

【現業部門】 (14人、再任用2人、会計年度任用職員18人)

[大家畜グループ]

|            |       |
|------------|-------|
| 技能技師       | 野口 洋昌 |
| 技能技師       | 柏木 龍治 |
| 技能技師       | 佐藤 史隆 |
| 技能員        | 細谷 幸司 |
| 技能員        | 小瀧 千絵 |
| 臨時技能員      | 佐川 一成 |
| 技能員(再任用)   | 小澤 寛之 |
| 会計年度任用職員9人 |       |

[養豚グループ]

|            |       |
|------------|-------|
| 技能技師       | 谷 一馬  |
| 技能技師       | 若林 透  |
| 技能員        | 金子 悦史 |
| 技能員        | 小菅 真悟 |
| 会計年度任用職員5人 |       |

[養鶏・環境グループ]

|            |        |
|------------|--------|
| 技能技師       | 小林 雄一  |
| 技能技師       | 大西 宣成  |
| 技能技師       | 阿部 浩一  |
| 技能技師       | 綾部 英和  |
| 技能員(再任用)   | 大河原 健右 |
| 会計年度任用職員4人 |        |

[普及指導課] (6人、再任用1人、会計年度任用職員2人)

|    |       |
|----|-------|
| 課長 | 平井久美子 |
|----|-------|

[酪農肉牛グループ]

|            |       |
|------------|-------|
| 副技幹        | 松尾 綾子 |
| 主任技師       | 千葉 麻央 |
| 技師         | 菊地 千絵 |
| 技師         | 山本 実可 |
| 会計年度任用職員1人 |       |

[養豚養鶏グループ]

|            |       |
|------------|-------|
| 副技幹        | 前田 高弘 |
| 主任専門員(再任用) | 相内 幹浩 |
| 会計年度任用職員1人 |       |